

解説「表紙の作者・田中瑞木さん」ジュ・パンス, 高文研, 1993

近所の画材店のガラス戸に、“ 絵画教室生徒募集 ”の貼り紙を見たのは、娘が12歳の時。生まれながら脳に障害をもっているにもかかわらず、5歳ころより描くことに熱中するのを見るにつけ、いつか絵で自分を表現できるのではと思っていましたので、すぐに申し込みました。うまく話のできない娘の、今から7年前のことです。

1ヶ月後、はじめての油絵「よその猫」に、家人一同驚くとともに、指導の川崎文恵先生のご苦労に胸が熱くなりました。ピンク色の夕空に一匹のトラ猫がしっかりと草地に立っている絵の有様は、娘が表現できずにいる心の中そのものと思われ、深い感動を覚えました。

とにかく明るい色調。理屈ではない天性の構成力と純朴な対象が、娘の絵の特長でしょうか。今月号の「バレエ」は、憧れのレオタード姿で踊りたかった思いが、のびのびと表されています。

一作品を仕上げるのに約8時間、筆運びの速さと思い切りの良さは、性格かもしれません。中学校、養護学校高等部時代には、公募展で入賞もしています。この作品もそのような思い出の一枚です。

娘は現在、地域の福祉作業所で織物、袋詰めなどの軽作業や、調理の仕事をがんばる一方、絵や水泳、サイクリングなどで余暇を過ごす毎日です。10回シリーズの紹介によって、たくさんの人と出会い、心を結べますよう願っています。